

2024年5月29日

第5回 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」総会 結果概要

【日 時】 2025年5月28日(水) 10:30～11:22

【場 所】 オンライン会議 (ZOOMミーティング)

【参加者】 会 員： 中核機関、参画機関、協力機関及び特別会員 (別紙の49名)
来 賓： 文部科学省 研究振興局 参事官 (情報担当) 付 学術基盤整備室 土井室長
ほか (別紙の5名)

【概 要】

○ 開会挨拶

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 山下智志 所長より、本プロジェクトが目指す今後の方向性や、現在の事業評価等について、以下の挨拶があった。

- ・ 昨今のデータサイエンスでは、Chat GTPを始めとするAI (人工知能) の社会への浸透が大きな話題となっている。AIを活用すれば何でも解決するという社会的風潮が熟成されているというイメージになっていることに、統計学的には大きな危機感を持っている。
- ・ AIがいくら発展しても、AIだけではデータサイエンスは成り立たない。また、統計学的視点がなければ、データサイエンスを支えることはできないと考えている。
- ・ 例えば、AIのアウトプットをどのように評価するかは、統計学の守備範囲となっている。また、AIを活用する前段階のデータクレンジングは不要とする意見もあるが、何らかの取舍選択・加工が有効という意見もある。
- ・ AIだけで分析したとしても、統計学を活用せずに、それを評価して意思決定に反映することは困難であると考えている。AIがいくら発達したとしても、統計学自体の重要性は低下するどころか高まっている。
- ・ 本プロジェクトにおいては、AI的思考自体についてもカリキュラムに盛り込むなどした研修を実施している。基本的にはAIは逆風ではなく順風と考えている。
- ・ 今年度は、本プロジェクトも5年目を迎え、当初目標としていた第3期生の修了に加え、第4期生の育成も開始される。このように研修修了生の厚みが増すことにより、孫世代の統計エキスパートの育成や大学統計教員の後継者養成にも活かされ、統計エキスパートの数だけでなく質の向上にも繋がるものと考えている。
- ・ このような成果を上げることが出来たのも、会員機関のご尽力の賜物と考えており、引き続きのご支援・ご協力をお願いしたい。

○ 来賓挨拶

文部科学省 研究振興局 参事官 (情報担当) 付 学術基盤整備室 土井 大輔 室長より、以下の来賓挨拶があった。

- ・ 近年、データサイエンスを名称に含む学部・学科等の設置大学数が急速に増加するとともに、AIの研究開発を始めとするデータ駆動型研究が進む中で、統計学の知識・活用が求め

られる場面が研究や産業のあらゆる分野で拡大している。また、大量かつ複雑なデータを適切に分析・解釈し、的確な意思決定に繋げることができる統計エキスパートの重要性は益々高まっている。

- ・ このような中、令和3年度から本プロジェクトを開始し、統計数理研究所を中核に多くの大学等との強力な連携の下、統計エキスパート人材の育成に取り組んでいただいている。
- ・ 本コンソーシアムの参画機関は、設立時の21機関から30機関に拡大するとともに、これまで計39名が研修プログラムに参加するなど、当初の目標を大幅に上回る成果を上げている。
- ・ このことについて、統計数理研究所及びコンソーシアム参画機関の皆さまのご尽力に、改めて敬意を表したい。
- ・ 本コンソーシアムの参画機関が担っている次世代の統計エキスパート人材育成の役割は、我が国における科学技術や産業の発展に大きく貢献するものと考えている。引き続き統計数理研究所を中核にコンソーシアムの力を結集して、統計エキスパート人材の育成に取り組まれるとともに、社会のニーズに沿った人材育成の取組が本事業終了後も発展的に継続できるよう、ステークホルダーとの対話を進めていただくことを期待している。

○ 議 事

- ・ 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 山下智志 所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、会員からの異議や修正意見等は示されなかった。また、参画機関の取組状況について情報共有を行った。
 - 1.コンソーシアムの令和6年度（2024年度）事業報告について
 - 2.コンソーシアムの令和7年度（2025年度）事業計画について
 - 3.今後のコンソーシアム活動のあり方について
- ・ この審議結果を受けて、「令和6年度（2024年度）成果報告書」の作成を進め、文部科学省に提出するとともに、令和7年度（2025年度）事業計画に沿って、第3期研修・第4期研修の実施、研修修了者に対する支援など、コンソーシアムの活動を進めることとなった。また、運営委員会体制の一部変更とコンソーシアム規約の改正について、情報共有が行われた。

（以 上）

※文責：コンソーシアム事務局

別紙

統計エキスパート人材育成コンソーシアム 第5回総会 参加者一覧

令和7年5月28日

【参画機関・特別会員】

茨城大学	大学院農学研究科・農学部	准教授	庄山 紀久子
大阪大学	数理・データ科学教育研究センター	センター長・基礎工学研究科教授	鈴木 譲
岡山大学	学術研究院 先鋭研究領域（資源植物）	教授	坂本 亘
〃	学務企画課		中島 雄二
九州大学	マス・フォア・インダストリ研究所	所長	梶原 健司
京都女子大学	学術研究支援部研究企画課		宗像 美香
京都大学	データ科学イノベーション教育研究センター	特定講師	岡本 雅子
群馬大学	数理データ科学教育研究センター	センター長	青木 悠樹
〃	食健康科学教育研究センター	准教授	長井 万恵
慶應義塾大学	大学院健康マネジメント研究科	教授	山本 渉
滋賀大学	大学院データサイエンス研究科	教授	佐藤 健一
〃	大学院データサイエンス研究科	准教授	松島 裕康
上智大学	大学院応用データサイエンス学位プログラム事務室		北村 紘一
総合研究大学院大学	統計科学コース	コース長	吉本 敦
中央大学	AI・データサイエンスセンター	事務長	石倉 孝一
データサイエンス共同利用基盤施設	社会データ構造化センター	センター長	前田 忠彦

データサイエンス共同 利用基盤施設	社会データ構造化センター		姉崎 沙紗佳
東京学芸大学	先端教育推進課	副課長	岩澤 大介
東京大学	数理・情報教育研究センター	センター長	駒木 文保
〃	大学院経済学研究科	教授	大森 裕浩
東京理科大学	データサイエンスセンター	センター長	赤倉 貴子
同志社大学	大学院文化情報学研究科	教授	宿久 洋
長崎大学	情報データ科学部	教授	植木 優夫
名古屋大学	医学部・医学系研究科経営企 画課		岩田 眞佐江
〃	〃		志賀 幾子
名古屋市立大学	大学院看護学研究科事務室	係長	毛利 周作
一橋大学	ソーシャル・データサイエン ス研究科	特任講師	佐野 仁美
広島大学	高等教育研究開発センター	教授	村澤 昌崇
立正大学	データサイエンス学部	教授	西崎 文平
早稲田大学	データ科学センター	教授	野村 亮
大妻女子大学	データサイエンス学部	講師	田島 友祐

※ 国立極地研究所、順天堂大学、東京科学大学、兵庫県立大学及び北海道大学については、
学事等の関係によりご欠席。

【協力機関】

※ 広島大学及び統計質保証推進協会は、学事等の関係によりご欠席

【中核機関】

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構

	統計数理研究所	所長	山下 智志
	〃	副所長	川崎 能典
〃	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター	センター長	千野 雅人
〃	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター	統括部長	澤村 保則
〃	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター	研修部長・研修 主幹・シニア教 員・特任教授	中西 寛子
〃	〃	教育システム開 発主幹・シニア 教員・特任教授	水田 正弘
〃	〃	シニア教員・特 任教授	国友 直人
〃	〃	シニア教員・特 任教授	佐藤 俊哉
〃	〃	シニア教員・特 任教授	清水 邦夫
〃	〃	シニア教員・特 任教授	神保 雅一
〃	〃	シニア教員・特 任教授	三輪 哲久
〃	〃	研修部・特任教 授	赤穂 昭太郎
〃	〃	研修部	高柳 昌芳
〃	統計数理研究所	管理部長	鈴木 修二
〃	〃	総務企画課総務 企画係長	茂木 諒平
〃	〃	総務企画課研究 推進係長	昨間 勲
〃	〃	総務企画課人 事・給与係長	笠川 勇将
〃	〃	運営企画本部員	木下 聡子
〃	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター統括部		市原 順子

【会員以外の参加者】

文部科学省研究振興局参事官（情報担当） 付	学術基盤整備室	室長	土井 大輔
〃	〃	参事官補佐	麻沼 美宝
〃	〃	係長	濱崎 拓郎
〃	〃	係員	野一色 伸
〃	〃	係員	橘 風吉